

お子さんがこの1年間で成長したことは？

中学校での最初の1年間もあっという間。第1号では思春期の難しい時期もホルモンのせい、自己肯定感を高めよう、第2号ではピグマリオン効果とゴーレム効果で適度な期待をかけてあげましょとお伝えしてきました。保護者の方の温かなサポートにより、お子さんはもうすぐ2年生へと進級を迎えます。この1年間で**お子さんが成長したことは**どんなところですか？また、そこに**関わってくれた様々な人の顔を思い浮かべましょ**。是非、成長したことを認め、環境への感謝の気持ちをもって、次年度2年生へと進級した時のやる気やモチベーションに繋げていきましょう。

右は令和5年に子ども家庭庁が調査した「我が国と諸外国のこどもと若者の意識に関する調査」の一部です。日本のお子さんは統計的に見ても、諸外国のお子さんより**自尊心**をもてていないことがわかります。私たち親はわかっているにもかかわらずできていないことに目が行ってしまいます。できていること・成長していることは必ずありますよね。

Q 周りの人に認められていると感じる（令和5年 子ども家庭庁 調査より）

	非常にあてはまる	ややあてはまる	どちらでもない	ややあてはまらない	全くあてはまらない
日本(n=1089)	8.2	33.4	34.2	16.3	7.9
アメリカ(n=1064)	19.9	33.9	27.5	10.9	7.7
ドイツ(n=1078)	17.8	47.5	21.5	9.9	3.2
フランス(n=1026)	19.5	41.2	23.9	11.4	4.0
スウェーデン(n=1026)	19.8	39.8	25.9	11.6	2.9

教育コラム “子供が進路選択をするうえで、保護者に望むこと”

茨城県学校長会長(水戸市立第一中学校長) 内田 和子 氏

子供が進路選択をするうえで保護者の協力は欠かせませんが、過度に干渉してしまうと子供が前向きに進路に向き合えなくなる恐れもあります。まずは、子供が進路選択で迷った時に相談したいと思える関係性を、日頃から作っておくことが大切だと思います。より良い進路選択について参考にいただければと、3つの視点を考えてみました。

1 視野を広げ、将来の目標を発見できるようにする

「進路選択」イコール「高校選択」ではありません。「進路を選択する」ということは「自分の生き方を考える」ということです。その選択は当然、将来なりたい自分を見据えての選択であると考えます。しかし、中学生の多くはやりたいことが特にあるわけではなく、将来についても具体的にイメージができていないことがほとんどです。そのため、まずは、将来どんなことをやりたいのか、どんな仕事をしたいのか、どんな人間になりたいのか等、具体的に考えるよう促してください。将来の目標が決まれば、必然的にこれからどうすべきか考えられるようになると思います。

2 「自分がやりたいこと」と高校の校風や雰囲気があるか調べる

将来自分がやりたいことが実現できる学校であるか、「校風や雰囲気」が自分に合っているか等、見極めることが大事です。そのために、積極的に学校見学会に参加したり、学校のHPで学校生活の様子や卒業生の進路先などを確かめたりして、比較検討してみてください。自分で調べ納得すれば、目標が定まり、さらに自覚も高まります。

3 志望校合格に向けての心構えや勉強に集中できる環境づくりを支援する

お子さんと話し合って「受験生ルール」を決めるのはどうでしょうか。例えば、「勉強を始める場所と時間を固定する」「スマホやゲームのルールを決める」など、自分で考え決めさせるなど、勉強に集中できる環境作りが大切だと思います。

中学生にとって一番の支えは保護者の皆さまですが、中学校の教職員も、生徒が適切な進路選択ができるよう全力で応援しています。合いが、人生に影響を与えることがある。良き出会いを。

<参考> 家庭教育応援ナビ「すくすく育ていばらきっ子」茨城県教育委員会



「家庭教育応援ナビ」QRコード



「家庭教育応援ナビ」公式X QRコード



X @Katei_sukusuku
すくすく育ていばらきっ子

